

世界が求める日本の医療と臨床工学技士 (TICO ザンビア大学病院心臓外科チーム養成プロジェクトの経験から)

吉田 修

特定非営利活動法人 TICO / 医療法人さくら診療所

TICOは、20年以上ザンビアで主に保健医療の分野で協力活動を行ってきた。この間に乳幼児死亡率は190/1000から60(日本3)に改善された。活動を始めた頃は、栄養改善やマラリア／エイズ／結核などの感染症対策、安全な水やトイレの普及などの優先順位が高く、我々もそのような活動を行ってきた。しかし、近年の著しい経済成長に伴って人々の生活は一変している。特に都市部ではショッピングモールが乱立し、自動車も激増、町中が大渋滞するようになった。

これまでアフリカだからしょうがないと諦めていた心臓病に対しても、適切な医療が求められる時代がやってきた。先天性心疾患とリウマチ性の弁膜症はかなり頻度が高く、まだまだ日本よりも悪い乳幼児死亡率をさらに改善するためには外科治療が必要である。また、生活習慣の変化により虚血性心疾患も激増している。血管造影とインターベンション、バイパス手術のニーズは非常に高まっている。

しかし、ザンビアに一つしかない大学病院でも心カテ／心臓外科手術は、外国人チームが気まぐれに少数例を実施するのみであった。ザンビア人スタッフへの教育／トレーニングはほとんど行われて来なかった。ザンビア大学学長からの強い要請で心臓外科チーム養成プロジェクトが昨年スタートし、ウェットラボ、PDA手術、ASD手術を実施、外科医4人と看護師1人の徳島での研修も行った。

このプロジェクトの最も重要な要素は、外科医の技術と人工心肺を回す技術の習得である。また、これまでアフリカに対する医療援助で常に問題になってきたのは、医療機器を提供しても適切に維持管理できず、すぐに壊れて埃をかぶってしまうことである。心臓外科では、様々な医療機器を適切に使用し、維持管理しなければならない。世界唯一の国家資格である日本の臨床工学技士の貢献が非常に期待されている。

今後の私の夢は、現在トレーニングを受けているチームが近い将来ザンビア国立循環器センターを担っていく人材になること、そして、臨床工学技士学校を作りザンビア人のみならず周辺の国々からも留学生を受け入れることである。

国際支援活動を通して感じた 臨床工学分野の必要性

北岡 豊永

徳島赤十字病院

2017年より、アフリカザンビア共和国においてザンビア人心臓血管外科チームの育成を目的としたNPO法人TICO主導による国際医療支援活動に参加している。

臨床工学技士としての活動の主な目的は心臓血管外科チームに必要なザンビア人体外循環士(Perfusionist)の人材育成であり、ザンビア大学教育病院と徳島赤十字病院にてカリキュラムを組みトレーニングをおこなっている。

体外循環技術全般における技術習得を目的としたトレーニングの内容は、症例に応じた体外循環計画の立案、基本的な人工心肺回路の構成やセッティング、モニター管理方法などの知識習得や水回しによる操作、トラブルシューティングなどである。

また、心臓周術期管理に必要な人工呼吸器や人工腎臓装置の知識や操作、保守管理技術習得にも力を注いでいる。

ザンビア国内の医療機関では医療機器を専門に扱うBioMedical Engineerが存在するが、臨床において幅広く機器を扱う専門職は存在しない。

よって、日本の臨床工学技士がおこなう代謝、呼吸、循環、医療機器管理業務に関する知識や技術がザンビアの医療全体において欠かせないことは、これまでの支援活動を通して日本側とザンビア側双方において強く認識できている。

我々は今後もザンビア人体外循環士の人材育成とともに、日本の臨床工学技士をモデルにしたトレーニングを続ける計画である。

今後、ザンビア国内においては臨床工学技士に近い資格制度が整うこと、そして教育機関が創設され、先では多くの人材が輩出されることを期待している。